

住宅以外にも 青森県産材は愛され 使われています。

青森県では、平成22年に施行された「公共建築物における木材の利用の促進に関する法律」以降、県内の公共建築物等の整備において、積極的に県産材を利用してきました。



BUILDING CASE

01

県民ホール(青森県庁舎1階)

竣工	平成31年3月 (青森県庁舎平成30年11月)
構造	地上6階地下2階建
主要樹種	ヒバ(外壁、案内板、格子、テーブル) スギ(テーブル、本棚) アカマツ(ベンチ、テーブル)
延床面積	内装68.7㎡、外壁9.9㎡

建築物の特徴

ヒバ材で表情一新 再利用で環境にも配慮

耐震・長寿命化に伴う減築改修工事で生まれ変わった青森県庁舎。外壁はパネル状のヒバ材をガラスで覆ったデザインで、明るくシンボリックな表情を生み出しました。外壁材に使用したヒバ材の4割は、解体した議場の天井などを再利用し、環境面にも配慮しています。また、ガラスによって木材が風雨や紫外線から守られるため劣化を抑え、維持管理コストの低減も期待できます。

庁舎の工事と併せて行った県民ホールの改修にも、県産材を活用しました。木材にはストレス緩和効果があるとされ、多くの県民が待ち合わせなどで利用するスペースに適しています。格子やベンチ、案内板や棚などで県産材をふんだんに使用。テーブルはヒバ、アカマツ、スギの3種類を組み合わせ、樹種ごとの手触りの違いを確かめられるデザインになっています。



BUILDING CASE

02

板柳中学校

竣工	令和2年1月
構造	地上2階建
主要樹種	スギ、カラマツ(構造用集成材) スギ、カラマツ、ヒバ(集成材) ヒバ、スギ、アカマツ(造作材)
延床面積	5990.64㎡

建築物の特徴

木の香り漂う学び舎 純木造の大空間

防火壁まで青森県産材を使った国内初の純木造校舎。あらかじめ火事で消失する部分を想定して部材の断面寸法を考慮する「燃え代設計」を行うことにより、表面を仕上げ材で覆う必要が無く、木質デザインを最大限に生かした施設を実現しました。

圧巻は高さ11.5mの吹き抜けとなっている大階段ホール。高窓から自然光が降り注ぐ開放的な空間で、県産材の温もりを全身で感じることができます。

柱や梁など、強度が求められる構造材にはカラマツやスギの集成材を使い、腐食の恐れがある土台部分にはヒバを採用。規模は5千㎡超と国内最大級で、使用した木材は約2780㎡に上ります。供給体制を確保するため、県内の森林組合や業者と連携を図り、それぞれの得意分野を生かして製材や加工を行いました。

